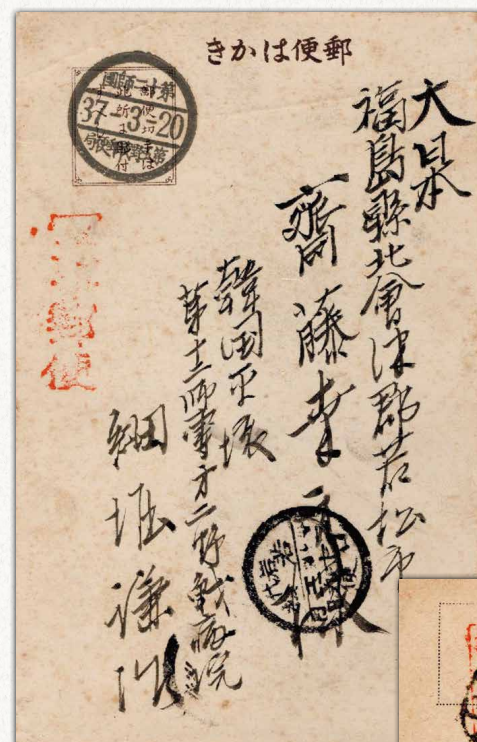


第60回全国切手展 JAPEx2025 誌上予告!

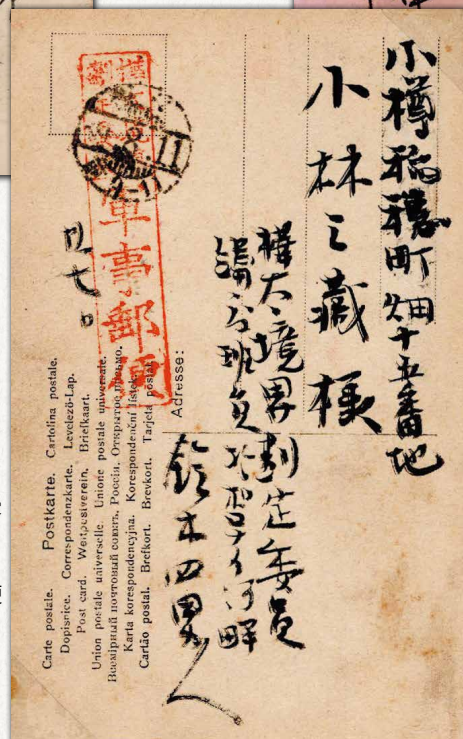
10月31日(金)～11月2日(日)の3日間、浅草の東京都立産業貿易センター台東館で開催されるJAPEx2025。注目を集める企画出品『日露戦争勝利120年』&『デンマーク切手展』について、その見どころを会場での展示に先駆けて紹介します。※開催案内については76ページをご覧ください。

『日露戦争勝利120年』

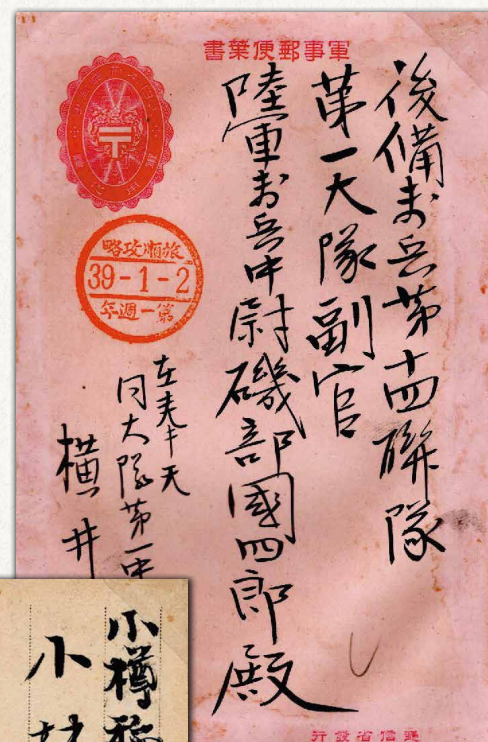


▲第十二師団の軍事郵便。日露戦争における最初の野戦局印で、開設期間が1ヵ月余りと短く、日露戦争作品では必須のアイテム／第十二師団第五野戦局(平壤) 明治37年3月20日。第十二師団は明治37年2月6日、第一軍の先遣隊として仁川に上陸し、即日、最初の第一野戦局が開設された。

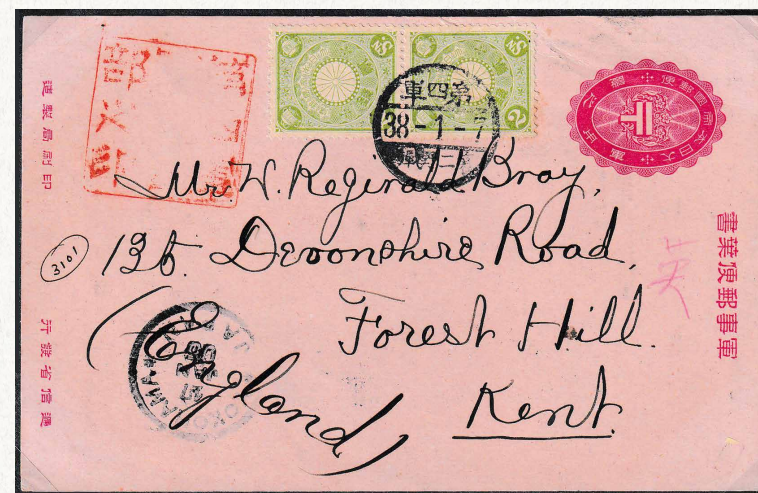
▶樺太境界画定委員の軍事郵便。日露講和条約により、樺太を南北に分ける国境線確定のため派遣された委員から差し出された郵便で、特別な軍事郵便が適用された／樺太(ポロナイ河畔、7月27日) 小樽 明治39年8月11日。



『日露戦争の軍事郵便』(森下幹夫氏より)



▲旅順攻略1周年記念日付印。旅順攻略戦が成功した1年後の明治39年1月2日に、鴨緑江軍司令部が奉天で祝賀会を開催した。その際、第一野戦局が臨時出張所を特設し、会場で使用された記念の日付印。実通使用は少ない／旅順攻略第一周年 明治39年1月2日。



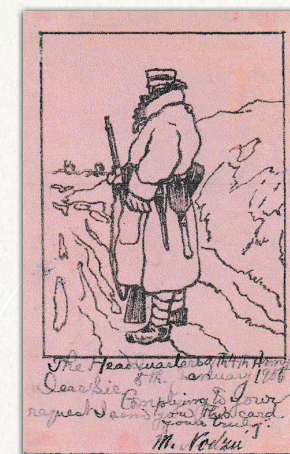
▲第四軍司令官・野津道貫からの外信便。軍人差し出しの郵便物であっても万国郵便条約の規定によるもの、すなわち外国宛の郵便物は軍事郵便としての取り扱いの適用を受けず、有料扱いとなった／第四軍第二野戦局(大堡) 明治38年1月7日、イギリス宛。使用された葉書は明治37年7月に通信省が発行した軍事郵便葉書。いわゆる赤紙軍事の一種で、陸軍恤兵部や各部隊が発行した。

『日露戦争』(玉木淳一氏より)

▶通信省次官・田 健次郎からの軍事郵便。日露戦争からは軍人だけでなく、戦地にいる民間人も軍の許可を得れば軍事郵便を差し出すことができた／NEWCHWANG 1905.4.10。差出人の田 健次郎は元衆議院議員で、当時は通信省次官。のちに貴族院議員、台湾総督などを歴任。使用されたのはロシアのステーションナリーで、接收品を軍事郵便台葉書として流用した。[65%]



▶裏面に書名のある永山元彦中佐は、ドイツ皇族接見員。[40%]



▲裏面には外套を着た歩哨が描かれている。

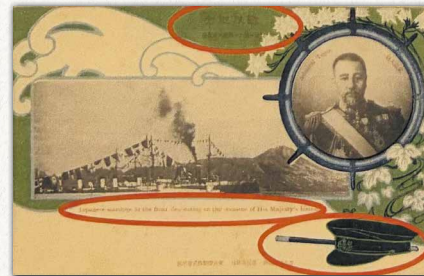
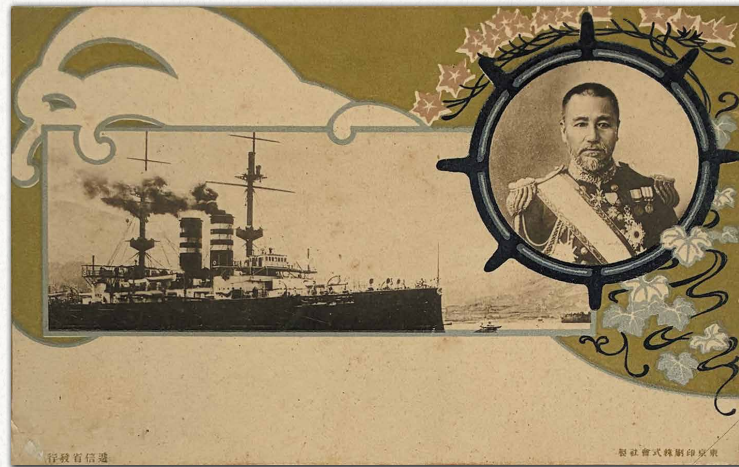
[35%]



▲ドイツ皇族随員からの軍事郵便。戦地訪問に訪れたドイツ皇族カール・アントン・フォン・ホーエンツォレルン親王とその随員に認められた軍事郵便の特別適用制度を利用して、在日ドイツ公使館付の外交官補だったポルト陸軍少尉が在日ドイツ大使館のグリュナウ二等書記官に宛て差し出した軍事郵便／遼東守備軍第一野戦局 明治38年1月16日。[65%]



『日露戦争勝利120年』

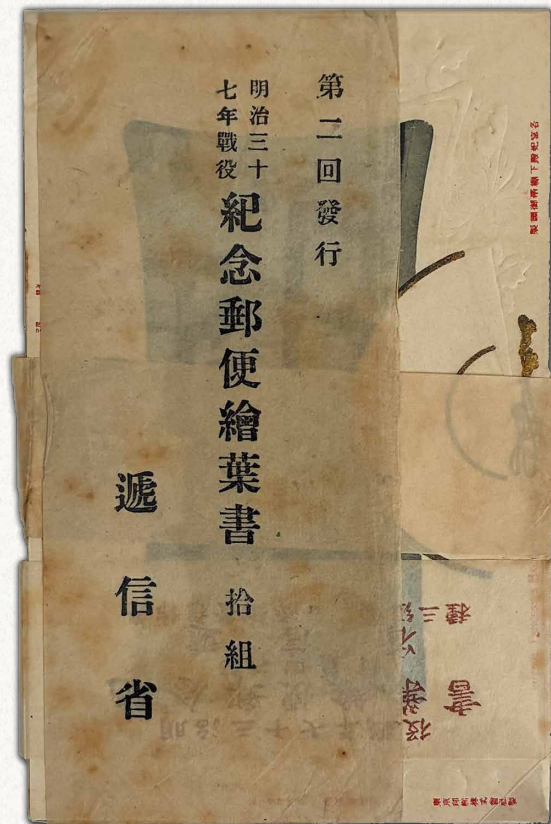


[40%]

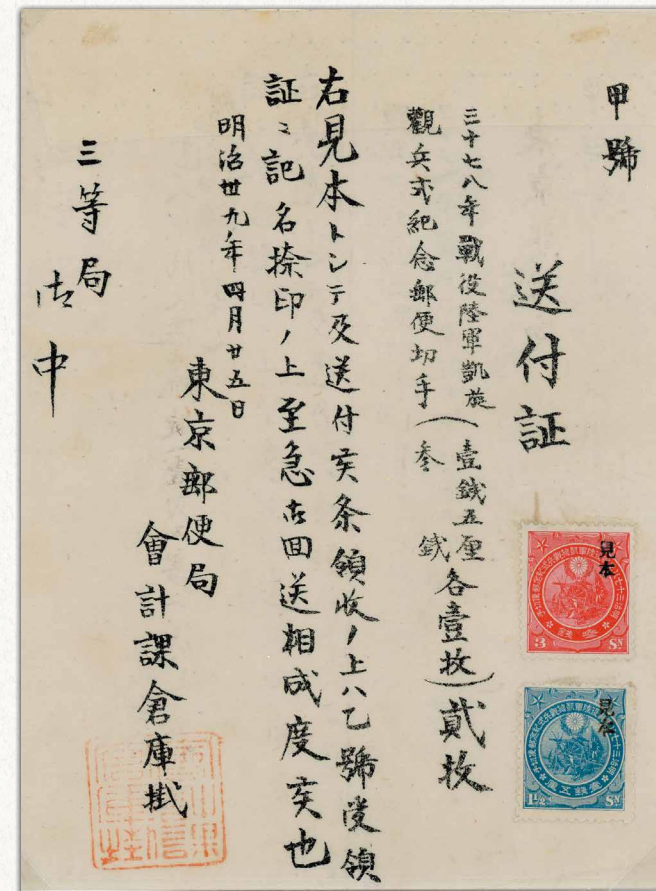
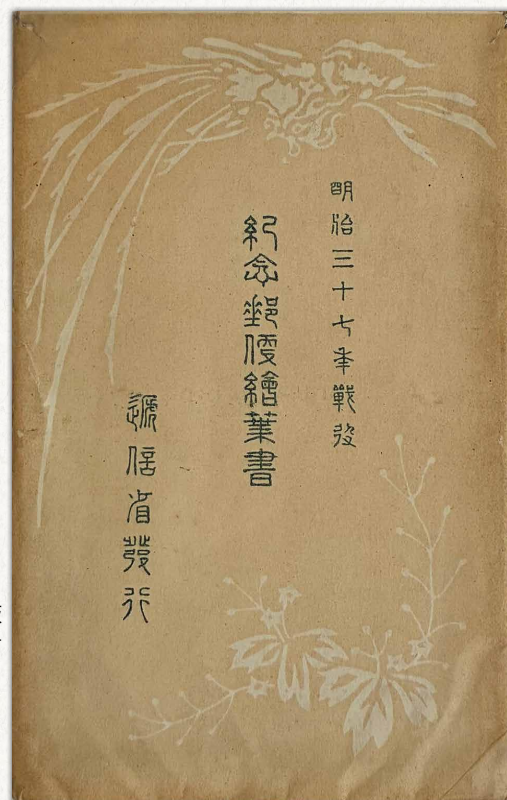
◀日露戦役記念絵葉書の中で最大の珍品となる第3回発行「天長節の部」の三笠艦大写真エッセイ。現存数点のエッセイで、実際に発行された記念絵葉書(上)とは、中央の三笠艦の写真が異なるほか、右下の帽子と指揮杖がなく、赤丸部分などが異なっている。

『通信省 明治三十七八年戦役記念絵葉書』
(虎頭雄彦氏)より

◀日露戦役記念絵葉書 第2回の官封。この第2回発行の官封の発見で、梱包は10組セット(各3枚入り)であることが判明した。



▶日露戦役記念絵葉書の第1～4回発行には、一般販売用とは異なる貴賓贈呈用タトウが存在しており、希少。右は第2回発行の貴賓贈呈用タトウ。



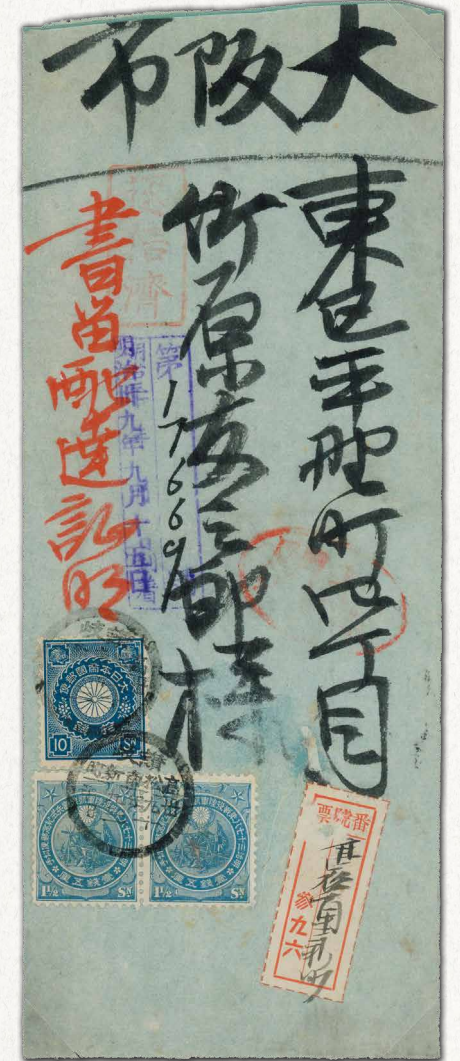
◀3銭の複合目打。左・P12×12¹/₂、現存2例、右・P12¹/₂×12¹/₂×12×12¹/₂、下辺のみP12L。



◀当時、記念切手も見本の官報実物貼付は廃止されていたが、その代わりとして記念切手の見本は1等郵便局で作成し、各郵便局に公布していた。左は東京郵便局が作成した「日露戦争凱旋観兵式記念切手」の見本切手送付証で、明治39年4月25日付けで管内3等局に宛てたもの。

『日露戦争陸軍凱旋観兵式記念切手』
(西川 聡氏)より

▼「日露戦争凱旋観兵式記念切手」は、記念絵葉書に貼付し、特印を押印した記念品作りにほとんどが費やされたことから、国内の書留など特殊扱いで使用された例は数例程度しか確認されていない。下は同記念切手1¹/₂銭2枚と菊10銭の計13銭貼書留配達証明書状/高松南新町 明治39年9月13日。



◀在中国日本郵便局での使用例。明治32年1月1日から、在中国日本郵便局に限り日本国内料金で通用した。「日露戦争凱旋観兵式記念切手」1¹/₂銭貼葉書/SOOCHOW(蘇州) 明治39年7月30日、静岡宛。



『デンマーク切手展』



▲2色切手の最高額面となる48Skillingの最大ブロック貼カバー。

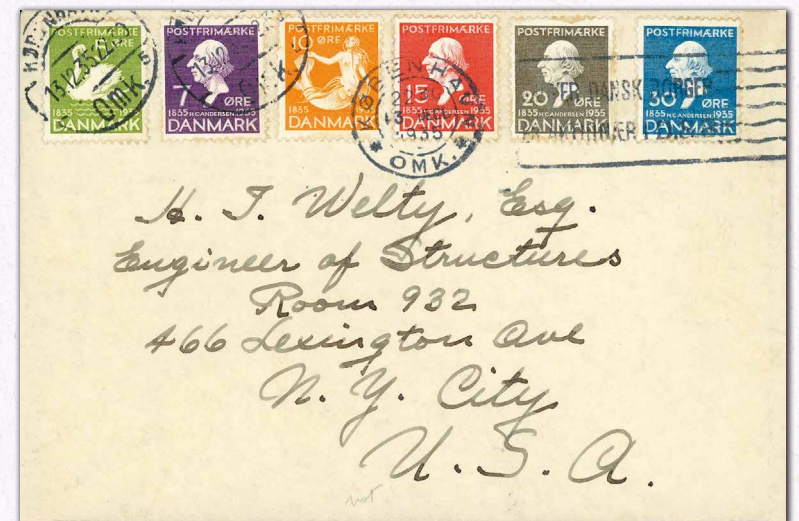


▲新旧通貨単位額面の混貼カバー。1875年の通貨改革で、旧通貨の96Skilling(=1Rigsdaler)は、1Krone(=100Øre)を単位とする十進法の通貨に置き換えられた。96Skilling=1Rigsdaler=2Krone=200Øre。このカバーのスウェーデン宛の料金は12Øreのため、旧通貨の2Skilling(=4Øre)+8Øreで12Øreとなる。

▶逆枠切手の唯一のブロック。逆枠切手はこれまでに20枚程が確認されている。



デンマークの首都コペンハーゲンにある「アンデルセン像」。



▲1935年10月1日発行の“アンデルセン童話集100周年”の切手は6種セット(5、7、10、15、20、30オーレ)で、5オーレは“みにくいアヒルの子”、10オーレは“人魚姫”、その他はアンデルセンの肖像を描く。その全種貼の米国宛カバー。



『Denmark Andersen Centenary Issue 1935 (アンデルセン童話集100周年記念切手)』
(内藤陽介氏)より

◀人魚姫の10オーレ切手5枚貼のブエノスアイレス宛航空便。1936年7月26日、コペンハーゲンから差し出され、マルセイユ経由ドイツまではルフトハンザで、ドイツ・ブラジル間は同社の飛行船で、そこから先はシンジカト・コンドル航空でアルゼンチンまで運ばれた。

『デンマーク2色切手』
(原田 肇氏)より

▶切手帳は各田型の5オーレ3ペーン、10オーレ2ペーン、15オーレ1ペーンを綴じており、裏表紙の広告違いがある。



(裏面)